

平成28年度 活動報告 (年報)



パズル完成品



国有林見学会参加者（春季）

林野庁 中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

平成29年3月31日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

一年を振り返って

平成28年4月に私を含め木曾森林ふれあい推進センター職員2名が交代し、新たな体制で平成28年度が始まりましたが、10月にも1名が交代しました。

今年度新規の取り組みを中心として簡単に紹介させていただきます。

パズルラリーの「木曾路トレッキングコース」と「赤沢自然休養林トレッキングコース」の2コースを4月29日から平成29年11月12日までの期間で開催しています。

「木曾路トレッキングコース」は、木曾地方の国有林等に所在する特色ある森林内の散策路を、利用者に分かりやすく説明すると共に、木曾への集客効果により地域振興を図ることを目的に作成したナチュラルトレッキングマップを活用し、地域産木材の利用促進を図るため当マップに掲載している散策路を巡りパズルを集めるラリーの取り組みを開始しました。「赤沢自然休養林トレッキングコース」は当センターが独自に創作したことから、一般的には知名度がないので遊び方を理解してもらうために、木曾路全域を回る「木曾路トレッキングコース」の普及版として、赤沢自然休養林内において短時間で完了するものです。パズルラリーについて「良かった」、「継続してほしい」との意見や協賛団体からも継続の強い要望が寄せられています。

5月25日、10月27日に国有林見学会を開催しました。これは、木曾川の上流部に国有林が多く分布し、その下流部では愛知用水により、農業、工業、家庭等に水が供給されています。また、名古屋市熱田区白鳥は、江戸時代初期の名古屋城の築城を契機に木曾山等から豊富な森林資源を背景とした木材の流通が盛んに行われた歴史があります。名古屋市を中心とした都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねて頂いて、木曾地域の林業のあゆみ、木材の輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道）及び熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生産地を見学して頂くことにより、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾との関連について理解していただくことを目的に行いました。

8月4日に教職員を対象とした森林・林業学習会を「木曾悠久の森を学ぶ」と題し、赤沢自然休養林内において開催しました。この学習会は、小中学校の教職員の皆様方に、森林の維持・管理、手法等についての学習を通じて、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めていただくとともに、森林環境教育を学校教育の中に積極的に取り入れていただくことを目的に、長野県と共催して平成14年度から開催しております。

9月30日に上松町観光協会が主催した「木曾悠久の森 上松町民見学会」の講師派遣依頼があり職員が講師として参加しました。この見学会は、赤沢自然休養林を始めとする森林一帯が「木曾悠久の森」に指定され、後世に向けた新たな保護制度により運営されることとなり、世界でも希少といわれる温体性針葉樹林の赤沢自然休養林内で木曾悠久の森制度について地元町民が学べる見学会でした。今後もこのような地元からの講師派遣の依頼にお答えしていきたいと考えています。

業務内容の一部の紹介となりましたが、1年間多くの方々と森林を通してふれあうことができたのも、当センターに勤務していたからできたことであり、大変有り難く思うとともに、協力して頂いた多くの関係者の皆様に感謝いたします。

[所長：新家孝之]

活動内容等

第1	支援体制の整備	
1	木曾地方支援イベントの開催	… 1
2	地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援	… 4
3	木曾川下流住民による森林整備に対する支援	… 6
4	小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の実施	… 7
5	森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催	… 8
第2	温帯性針葉樹林「木曾悠久の森」における取組	
1	パンフレット作成	… 10
2	見学会の開催	… 11
第3	NPO等との連携による自然再生の推進及び森林環境教育等の支援	
1	自然再生の推進	… 12
2	森林環境教育支援	… 21
第4	中部森林技術交流発表会	… 23
	年間の活動及び行事等	… 25

当センター設置の目的

- 1 国有林野等を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- 2 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

活動フィールド

主な活動区域を木曾森林管理署及び南木曾支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曾森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曾郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曾町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曾郡木曾町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曾森林ふれあい推進センター」

第 1 支援体制の整備

1 木曽地方支援イベントの開催

(1) パズルラリー

御嶽山噴火災害の発生から3年目となる現在でも、木曽谷を訪れる観光客は噴火前の75%にとどまっています。

当センターでは、この噴火災害の影響により観光客数が低迷する木曽谷への支援を目的に、中京圏とのイベント交流や、木曽谷の復興支援ツアーのほかに、森林の大切さを理解してもらうことを目的とした「パズルラリー」を実施することとしました。

これは、木曽地域の観光協会等と連携し、当センターが平成25年度に作成した、木曽路ナチュラルトレッキングマップに掲載している木曽路の散策コース12カ所にパズルピースを置き、ピースを6枚集めると1枚の絵が完成する「パズルラリー」を、「木曽路トレッキングコース」と、普及版として赤沢自然休養林内で短時間で完了する「赤沢自然休養林トレッキングコース」を、4月29日（金）から平成29年11月12日（日）までの期間でスタートしました。



作成したマップ

① 木曽路トレッキングコース

「木曽路トレッキングコース」は、木曽路美術館の協力により、江戸時代の浮世絵師「溪斎英泉」の木曽街道「馬籠」の絵を、地元産ヒノキ間伐材の板に直接カラー印刷したものを6分割し、木曽地域6町村別に1ピース置き、各町村の散策路にあるパズル箱や施設等を巡って6枚のピースを集めると絵が完成し、集めたピース6枚を写真に撮り、当センターへ送ると台座を進呈するものです。

また、木曽路散策コース全12カ所を制覇した先着100名に、はがき大の地元産ヒノキ間伐材の板にカラー印刷した、歌川広重の「上ヶ松」と溪斎英泉の「伊奈川橋遠景」の浮世絵を進呈することとしており、3月末日時点で44名の方が全12カ所制覇しています。

パズル配置場所

- 1, 木祖村・塩尻市
水木沢天然林・鳥居峠
- 2, 木曽町 城山史跡の森・地蔵峠・油木美林
- 3, 王滝村 木曽御岳自然休養林・御嶽古道
- 4, 上松町 赤沢自然休養林
- 5, 大桑村 阿寺溪谷
- 6, 南木曽町・中津川市
馬籠峠・田立の滝・柿其溪谷



6枚のパズル



完成品（木曾街道 馬籠）

木曾路美術館 所蔵

② 赤沢自然休養林トレッキングコース

「赤沢自然休養林トレッキングコース」は、中部森林管理局が所蔵している「木曾式伐木運材図会」の1場面を6分割したものを使用しています。木曾式伐木運材図会は、江戸時代後期頃の伐木運材方法の様子が描かれた絵巻物で、林業の歴史を語るうえでも貴重な資料です。

絵図は「元伐之図」とし、6分割したピースを自然休養林内の各コースに設置したパズル箱の中に置き、6枚集めるとピースの貼り板と台座を進呈し絵が完成するようにしました。



元伐之図



パズルラリーの様子

当初、夏休みまでは終了しないとの予想に反し、大勢の方に挑戦していただき、開始から2ヶ月あまりで終了しました。

第1弾での課題や反響を踏まえてルール等を改正し、「株焼之図」を使用して9月23日（金）から赤沢自然休養林が閉園する11月13日（日）までの期間に第2弾を行いました。

木曾谷では、今だ御嶽山噴火前の水準には戻っていません。

パズルラリーは、今年度から始めた事業であり、木曾谷の観光地への集客にもたらした影響は未知数ですが、協賛していただいた各団体からも「好評だった、継続して欲しい」との意見もあり、地元町村や観光協会等の協力を得ながら木曾谷支援の取組として、平成29年度も引き続きパズルラリーを実施します。

(2) 国有林見学会

木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曽川下流域の住民を対象とした「木曽の国有林見学会」を、5月25日(水)と10月27日(木)に開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曽地域と名古屋の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうこと、併せて木曽地域復興支援を目的に、下流域の都市住民の方々に、木曽川源流の国有林を訪ねていただき、木曽地域の林業のあゆみ、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び名古屋の熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座で、名古屋市内を中心にそれぞれ45名程度の一般参加者と、ガイドを行う国有林職員により実施しており、口コミ等により名古屋市民から好評で、多くのキャンセル待ちの中、行っています。

本番に先駆け、当見学会の予備知識を深めるために愛知県名古屋市にある中部森林管理局名古屋事務所敷地内の「熱田白鳥の歴史館」において、歴史と木材の利用をテーマとした展示の見学や事前学習会を行いました。

当日は、途中からバスに乗車した当センター所長から、赤沢自然休養林までの景勝地や赤沢自然休養林等の説明を受け、想いを膨らませながら木曽ヒノキの生地へと向かいました。

秋の見学会では、秋空の暖かな日差しの下、中部森林管理局次長から歓迎の挨拶の後、昼食をとり、森林鉄道で木曽ヒノキの森林と溪流が織り成す景色を眺めながら終点「丸山渡停車場」に移動し、職員のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢約三百年余りの木曽ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曽五木の樹種の見分け方や特徴などを学びました。



職員からの説明を聞く参加者(春季)



参加者を前に次長から歓迎の挨拶(秋季)

参加者からは、「楽しかった」「森林鉄道が素晴らしかった」「この森林がいつまでも存続することを願う」との感想や「できれば希望者全員が参加できるように」「季節毎に催せないか」といった要望が聞かれました。

なお、この国有林見学会は木曽復興支援の取組に位置づけており、チャリティーとして参加費用の中に地元の特産品等の購入代(お土産)が含まれています。

2 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援

(1) 木曽郡植樹祭

5月21日(土)、長野県木曽郡南木曽町漆畑地区の町有林で南木曽町と木曽森林管理署南木曽支署の合同植樹祭(木曽森林管理署、当センター後援)が開催されました。この植樹祭は毎年恒例行事で、開催場所を町有林と国有林で交互に行っています。

また、第67回全国植樹祭のプレイベントとしての位置づけとなった木曽郡植樹祭(県民植樹祭)も併せて開催されました。

当日は、雲一つない晴天に恵まれ、式典では南木曽小学校4年生児童による「みどりの宣言」や、式典会場となった木地師の里から南木曽ろくろ工芸共同組合員による「ろくろの手挽き」の実演が行われました。

式典後は、地元住民、地域関係者をはじめ林業関係者ら約500人が参加し、南木曽町の花であるミツバツツジやろくろ細工の原木になるトチノキやケヤキなど約2,000本の植樹を行いました。



記念写真

(2) 木曽地区みどりの少年団交流集会

木曽地域のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会が、8月2日(火)に長野県木曽地方事務所の主催で開催され、当センターも技術指導のために参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されており、今年は木祖村「こだまの森」を会場に11の少年団、引率教員、主催者、指導者等含めて約140名が参加しました。



木製へらを作る団員

各みどりの少年団による活動発表の後、各グループに分かれ自己紹介のあと、料理に使うへらの形に切り抜いた板をサンドペーパーで研ぎ、各人が家で使うへら作りを行いました。

午後から木や山に関するフィールドビンゴを行う予定でしたが、あいにく雷雨が心配されたことからフィールドビンゴは中止となりましたが、子供達の間では良い交流の場となりました。

(3) 木曾川水源地域の森造り協力事業 NPO法人 緑の挑戦者

愛知県名古屋市のNPO法人「緑の挑戦者」は、木曾郡内3町村と森林整備協定を結び、木曾川下流域の市民による森林整備を行っており、当センターでは該当町村（本年度は長野県木曾郡木曾町）の派遣依頼を受け、技術指導を行いました。

10月22日（土）は、木曾町戸立町有林において、企業で参加された方をはじめ家族連れなど54名が参加し、ヒノキ林の除伐作業とクマ剥皮防止テープ巻き作業を行いました。



クマ剥皮防止テープ巻き

(4) 「ふれあいの森」森林整備 NPO法人 地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」は、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始し、その後、「ふれあいの森（名称：『大樹の森・赤沢』）」の協定を締結以降、毎年森林整備を実施しています。

今年度は5月21日（土）、22日（日）と9月10日（土）、11日（日）に延べ58名がヒノキ除間伐作業を行い、当センター及び木曾森林管理署職員から伐倒方法の手順、かかり木処理の仕方などの安全指導を受け無事作業を終了しました。

その後、天然更新試験地の見学、ヒノキ等の更新メカニズムや保育の大切さの説明を受けました。



除伐作業と実施後の林内

3 木曾川下流住民による森林整備に対する支援

(1) 「平成の名古屋市民の森づくり」事業の支援

愛知県名古屋市では、名古屋城本丸御殿復元事業で、木曾ヒノキが材料として使用されることから、使用するだけでなく植栽、育樹を行い上流域である木曾地域の豊かな自然環境を将来に残そうと、「市民による森づくり」に取り組んでいます。

平成21年から実施されている活動で8回目となる今回は、5月14日（土）に名古屋市からの一般募集市民と関係者200名が木曾町の町有林においてヒノキやコナラなどの広葉樹730本の苗木を植えました。

植樹された苗木にはニホンジカからの食害を守るために防護ネットの設置も併せて行いました。

また、開会式では協力団体の技術者がカラマツの伐倒実演を行い、参加者からは倒れるときの迫りに歓声が上がっていました。

当センターでは、職員派遣依頼を受けて作業用具の貸し出しと、技術指導を行いました。



ネットを設置する参加者

(2) みよし市友好の森整備（みよし市・木曾町交流事業）

愛知県みよし市は、作業を通して森林保護や環境保全等の啓発活動や上下流域の交流を行う目的で、黒沢御岳国有林に隣接する木曾町三岳地区内にみよし市が水源涵養林として保有している森林の除間伐作業を9月17日（土）に行いました。

一般参加の市民28名（内小中学生14名）と市職員7名が5班に分かれ、作業現地までの森林散策を行い木曾森林管理署、木曾地方事務所及び当センター等の職員から伐倒方法等の指導を受けた後、2～3人で間伐作業を行いました。

参加した人たちの中には、伐採した木をコースター等にして持ち帰る人もおり、「将来のため森林整備は必要」、「普段出来ないことができた」との意見があり好評でした。



職員による作業指導

4 小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の実施

8月4日（木）、木曾地域の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を、赤沢自然休養林で実施しました。

この学習会は、小・中学校の教職員に、森林・林業について理解を深めていただき、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県との共催により平成14年度から実施しているもので、今年で15回目の開催となります。



木曾悠久の森の説明を受ける参加者

今回は温帯性針葉樹の保存・復元を図るために設定された「木曾悠久の森」について、先生方に理解を深めていただくために、赤沢自然休養林内の説明に絞りました。

森林鉄道で丸山渡停車場まで移動し、木曾五木の説明から始まり、その後、普段一般の方が入林出来ない「千本立」、「奥千本」を散策しながら、森林の生立ちや歴史、「木曾悠久の森」の取組などの説明を行いました。



奥千本にて集合

前日の夕立のせいか、澄み切った空気とヒンヤリとした森林の中を、柔らかい土を踏みしめての散策は、私たち職員でもなかなか味わうことの出来ない爽快なものでした。

参加した先生からは「身近な素晴らしい自然を教職員、地域の方が理解し、後世に伝え、つなげていく大切さを、子供たちに伝えたい」、「教師が自然の中で学び、安心する心ができるとき、子供に対して多くを教えることができる」、「遠足など自然体験で来てみたい」との感想が寄せられました。

毎年、先生方の参加が減少傾向にありましたが、今回は木曾地域の11名の先生方に参加していただきました。アンケートでは、次回開催希望について「普段入林出来ない箇所へのエコツアー」を希望された方が殆どであり、これを参考により良い学習会を計画して行きたいと考えています。



木曾悠久の森を散策

5 森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催

この会議は、中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人との交流促進及び情報交換や相互研鑽を行うことで、ボランティア団体等の更なる資質の向上を図るとともに、広く一般の皆さんに対し国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的とし、10月14日（金）15日（土）に開催したもので、10団体と局署職員併せて55名が参加しました。

1日目は、参加団体の見識を広げるため、南信森林管理署管内の東俣国有林内にある国指定遺跡の「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」において、下諏訪町立諏訪湖博物館長の宮坂清氏から、発掘の苦労話や縄文時代の黒曜石発掘・運搬の方法等をわかりやすくユーモアあふれる説明に聞き入り、なかなか見れない場所に興味津々でした。

その後、南信森林管理署職員から「ニホンジカの食害対策の取組」について、紙芝居風にした説明や、くくりワナ設置の方法の実演に参加者は聞き入っていました。



館長から遺跡の説明

2日目は、「森林（もり）は友だち、森に入ろう」をテーマに、「森・ふれあいフェスタ」を開催し、爽やかな秋晴れの下、大勢の親子連れが会場に訪れ、木製のパーツを組み立てるミニイス作りや、竹とんぼ作り、木工細工や、土からできた不思議な絵の具を使ったドブアートや、青竹を使ったパン作りなど、10のブースで様々な体験を楽しんでいました。

また、地元、長野県諏訪郡下諏訪町のゆるキャラ「やしまる」と「万治くん」の登場もあり、「楽しかった」「また参加したい」との声が聞かれ、延べ千人の参加者に木や自然素材の数々と触れ合ってもらう機会をつくることができました。

参加した局署の職員も、様々なNPO団体等と接する機会となり、2日間を通して充実した連携・交流の場となりました。



遺跡の説明を聞く参加者



南信署職員からのくくりワナ設置実演

【参加団体】

- ・ N P O 法人戸隠森林植物園ボランティアの会
- ・ N P O 法人信越トレイルクラブ
- ・ N P O 法人やまぼうし自然学校
- ・ 一期会
- ・ N P O 法人森林環境
- ・ 城山史跡の森倶楽部
- ・ 金華山サポーターズ
- ・ N P O 法人飛騨小坂200滝
- ・ N P O 法人名古屋シティフォレスター倶楽部
- ・ 国土防災技術株式会社



ミニイス作り



かんなくずプール



木工細工



竹とんぼ作り



ゆるキャラ 万治くん



ドバスアート



ヒノキ箸作り



NPOの皆さんとの集合写真



ブリッジ積木



青竹パン作り



丸太切り



竹笛作り

第2 温帯性針葉樹林「木曾悠久の森」における取組

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曾地方の森林は、良質の木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では木曾地方の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされる、さまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曾悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等の連携を通じてPRに取り組んでいます。



温帯性針葉樹林（長野県木曾郡王滝村）

1 パンフレットの作成

木曾悠久の森のエリア内には、自然休養林をはじめとするレクリエーションの森が点在しており、森林に囲まれた溪谷と清流が調和と豊かな景観を有し、観光や保養として利用されています。こうした利用者をはじめ木曾地方を訪れる多くの方々に「木曾悠久の森」の取組に理解を深めていただけるよう、パンフレットを作成しました。

パンフレットの内容は目的、将来の森林のイメージ、主な温帯性針葉樹の特徴、区域図からの構成で、幅広い年齢層の方に目に止まるよう、写真・絵を織り交ぜながら解説しています。

今後、関係署をはじめ地元の観光協会等との協力をを行いながら、より多くの方に配布していければと考えています。



木曾悠久の森パンフレット（一部）

2 見学会の開催

当センターでは、中京圏市民等を対象とした国有林見学会や、木曽郡内の教職員を対象とした森林・林業体験学習会等の主催行事を通じ、木曽悠久の森に関するPRを行っています。

9月30日（金）には、地元木曽郡上松町観光協会と連携して「木曽悠久の森上松町民見学会」を赤沢自然休養林内で開催し、木曽悠久の森における取組に関するセミナー（講演）と、核心地域コアaに区分し、温帯性針葉樹林を厳格に保存する区域への現地見学を行いました。

セミナーでは中部森林管理局担当者から、地域の方でもなじみのある木曽地方の歴史、木曽の森林と地域の人々との関わりなどの話を交え、取組の目的、森林の現況、取組課題、森林の将来像等についての説明と、現地見学では、樹齢約300年の木曽ヒノキ等の温帯性針葉樹を見ながら森林の現況等について説明を行いました。

参加者からは、数百年にも及ぶ取組に対する関心が高かったこともあり、赤沢地区での検討課題に関する質問や、地域住民への見学会開催の要望なども寄せられました。

今後も関係団体等と連携して、足を運んで下さった多くの方々に、木曽悠久の森を認識していただく機会づくりに努めていきたいと考えています。



セミナー（講演）



現地見学の様子

第3 NPO等との連携による自然再生の推進及び 森林環境教育等の支援

1 自然再生の推進

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組みを推進し、自然再生活動事業を実施します。

自然再生の取組み自体は国有林とNPO等との連携のもとで実施しています。

(1) 木曾駒ヶ岳における植生復元対策事業

① 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により、高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てボランティアの協力の下、平成17年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

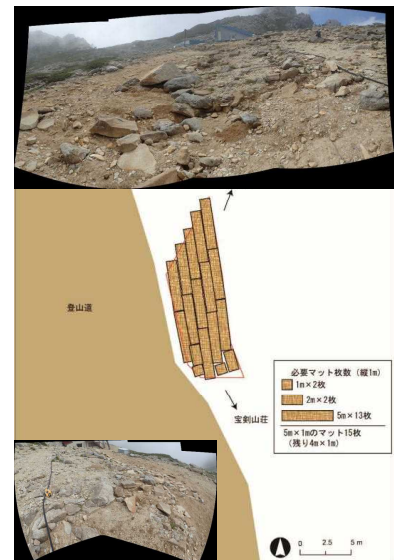
年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	(荒天のため中止)		
28. 7. 20	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	150	12
28. 9. 09	天狗荘周辺・伊那前岳方面	106	30
計		2,223	376

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

② 平成28年度の取り組みについて

ア 植生マット敷設箇所の選定等

昨年度、荒天のため中止となった敷設箇所の新規敷設及びマットの劣化による再敷設（補修）を主体に計画し、さらに、水流による地表面の洗掘と植生の流出を防ぐため、付近に点在する大小の礫類を敷き詰めた「石組みダム」の設置と、表層の細粒土を手鋤により耕し、地中の礫を地表面に出して種子の定着を促す「耕起」作業を一部の作業箇所です新たに取り入れることにしました。



新規敷設計画図

イ 敷設作業等の実施

選定調査をもとに、ボランティア及び関係者らと7月20日、9月9日の2日間で実施しました。いずれも天候不順から翌日に順延しましたが、参加者からの協力をいただき、予定した作業を無事に終えることができました。

◎当日の作業内容

作業内容		7月20日（水）	9月9日（木）
マット敷設	新設	44 m ²	71 m ²
	補修	106 m ²	35 m ²
石組みダム		—	7箇所（2 m ² ）
耕起		—	85 m ²
その他		啓発看板の設置 周辺のゴミ拾い	資材運搬 （ロープウェイ山頂駅～現地）



敷設作業（7月20日）



啓発看板の設置（7月20日）



敷設作業（9月9日）



参加者全員で（9月9日）

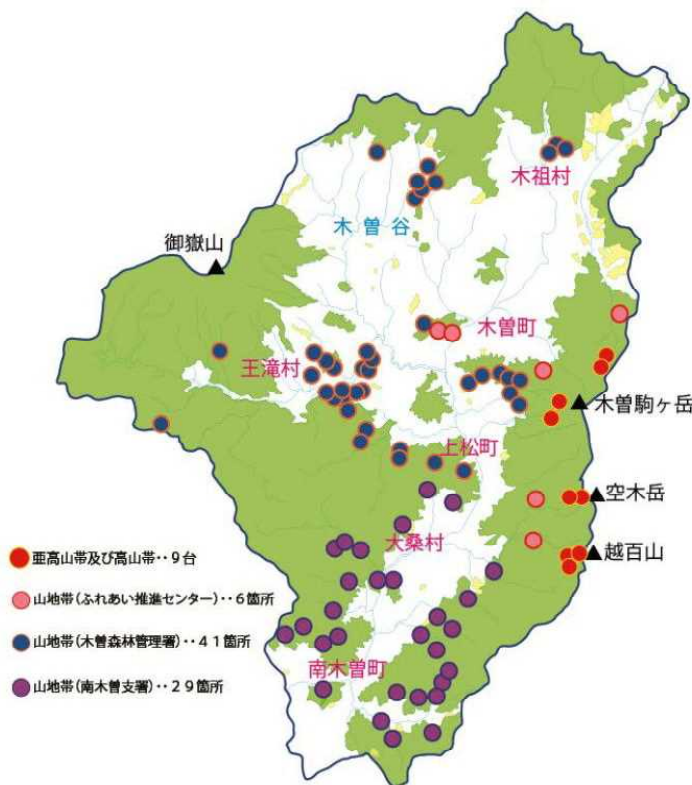
③ ニホンジカ等による植生食害の予防に関する調査

全国的にニホンジカによる農林業への被害が深刻化している中、中央アルプスでは現在のところ高山植物の食害は発生していない状況ですが、山麓部を中心に分布域が広がっており、2,500mを超える高標高地でもニホンジカが確認されるなど、今後、貴重な自然環境への影響が懸念されています。

当センターでは、それぞれの国有林を管理する木曾森林管理署、南木曾支署及び南信森林管理署と連携し、主に木曾谷から中央アルプスの各峰に通じる登山道沿い及び稜線付近（標高1,300～2,700m）においてセンサーカメラを13台設置し、ニホンジカ等の生息状況並びに木曾谷からの侵入経路について調査を行いました。

このうち、6月15日に越百山登山道入口（標高1,340m）で、8月5日に空木岳登山道（2,460m）で、10月15日に将棊頭山登山道（1,940m）で、それぞれ雄ジカ1頭が撮影されました。単独行動の途中と見られますが、各方面から標高の高い場所を通り移動していることが確認できたことから、今回撮影された場所や未設置の登山道へのカメラ増設など、侵入経路に関する調査を29年度も継続して取り組むこととしています。

また、山麓部での分布域が広がっている点を踏まえ、ライトセンサスによる個体数調査、餌付け誘引による捕獲試験を、民有林関係者、関係署等と連携して取り組むほか、木曾前岳付近（標高2,740m）ではニホンザルの小群も確認されたことから、今後とも高山帯における野生動物の生息状況等について注視していきたいと考えています。



センサーカメラ設置箇所（木曾谷）



カメラ設置状況



ニホンジカ（空木岳登山道）

(2) 「城山史跡の森」 自然再生・NPO等活動拠点整備事業

① 「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

長野県木曾郡木曾町の福島地区市街地の北西に位置する城山国有林「城山史跡の森」は、戦国時代木曾氏によって築かれた山城である福島城跡や木曾義仲にまつわる権現滝などの史跡等に恵まれ、木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物等が気軽に観察できるコースとして、県内外から多くの観光客が訪れています。

「城山史跡の森倶楽部」が主体となって実施する「城山史跡の森」の森林整備、希少野生植物の保護活動等に対し、当センターでは支援、協力を行っています。

また、「城山史跡の森」は、木曾川下流域の人たちとの交流の場として活用されています。

ア 長野県指定、希少野生植物の増殖・保護活動

「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

今年度も、カザグルマとササユリの自生地において、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに整備、保護活動を行いました。

平成29年度に新たな試みとして、ヤマシャクヤク自生地の保護活動のため、グリーンロープの設置、動物からの食害防止対策の電気柵設置を計画しており、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんと行いたいと考えております。

(ア) カザグルマ自生地の整備

カザグルマの自生地では、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに、5月18日(水)にカザグルマを支える竹棹の取替え作業を実施し、11月13日(日)には生育を阻害するクズの刈り払いと根部への薬剤処理などの作業を行いました。

このほか、本数調査や増殖・保護活動も継続して行っています。



自生地の整備（支柱取替え）



クズ根への薬剤処理（黄色の部分）

(イ) ササユリ自生地の整備

ササユリの自生地では、ここ数年動物による食害（特にイノシシ）が見られ、5月11日（水）に新たな試みとして電気柵の設置を「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに行いました。

11月13日（日）に林床の整備、播種作業と、新たな試みとして設置した電気柵の撤去作業を行いました。電気柵設置後、毎月1回の見回りをしたところ動物による食害は確認されませんでした。29年度は電気柵の設置面積を拡大するとともに、引き続きセンサーカメラによる実態調査を、「城山史跡の森倶楽部」はじめ関係機関等と連携して取り組んでいきたいと考えています。



自生地の整備とササユリの播種

◎ カタクリの調査

平成25年度	41本を確認
平成26年度	41本を確認
平成27年度	54本を確認
平成28年度	22本を確認



カタクリ（28年4月）

◎ ヤマシャクヤクの調査

平成25年度 194本を確認
平成26年度 269本を確認
平成27年度 264本を確認
平成28年度 357本を確認(個体数)



開花前後のヤマシャクヤク(28年4、5月)

◎ カザグルマの調査

平成25年度 184本を確認
平成26年度 130本を確認
平成27年度 139本を確認
平成28年度 一本を確認(整備中心)



カザグルマ(28年5月)

◎ ササユリの調査

平成25年度 24本を確認
平成26年度 34本を確認
平成27年度 27本を確認
平成28年度 29本を確認



開花前のササユリ（28年6月）

イ 「城山史跡の森倶楽部」等が行う遊歩道等の整備及び植物観察会活動への支援

「城山史跡の森倶楽部」は、「城山史跡の森」のうち、城山風致探勝林（レクリエーションの森）に指定されている区域を対象とし、平成16年度に木曾森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」（対象面積77.90ha）を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動を実施しています。

当センターでは、「城山史跡の森倶楽部」の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与などの協力を行っています。

（ア）遊歩道等の整備

4月10日（日）、観光シーズンを迎える前、自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、「城山史跡の森倶楽部」会員とともに、「城山史跡の森」遊歩道のササの刈り払い、遊歩道の水きりやあずまやの清掃などの整備を行いました。



遊歩道整備（ササの刈り払い、水きり）

(イ) 自然観察会、小鳥の巣箱掛け等

【自然観察会】

4月29日（金）、木曾町観光協議会主催の植物観察会に、小学生など約30名が参加し行われました。

この観察会は、毎年、「城山史跡の森」で行われているもので、当日は、植物に詳しい県植物研究会員の講師や「城山史跡の森倶楽部」会員の案内により、春の芽吹き始めたばかりの森林、約8キロの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策を行いました。



植物観察会の様子



フタバアオイ（平成28年4月）

【小鳥の巣箱掛け】

11月13日（日）、小鳥の巣箱掛け作業を「城山史跡の森倶楽部」会員など7名の参加により実施され、当センターからは4名が協力しました。

小鳥の巣箱掛けは平成21年度から毎年実施しており、巣箱は当森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象に作成しています。

以前設置して古くなった巣箱40箱を取り外し、今年度地元の方が丹念に作成した新しい巣箱40箱を設置しました。

取り外した巣箱の半数で営巣や利用した形跡が確認され、来年の繁殖期でも多くの小鳥たちに巣箱を利用してもらえるよう作業を行いました。



巣箱掛け



コケ類が敷き詰められ産座のあった巣箱

ウ「城山史跡の森」に生育する木曾五木のひとつ「コウヤマキ」の後継稚樹の育成

概要と状況

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることからその名に由来するといわれ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は建築、器具等に用いられ、水に強く腐りにくい特徴から、古くから風呂桶や船舶等の用途にも使われていました。

木曾谷地域におけるコウヤマキの生育箇所は限られていますが、「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があります。

コウヤマキの天然稚樹育成のための調査プロット（1×1m）を、平成21年度に5箇所設定し継続して観察を行っています。

プロット周辺は、木曾ヒノキ、サワラ、モミ等が林冠を形成し、下層はホオノキ、リョウブなどの広葉樹が占有して春から秋にかけての林床への照度は弱く、発芽条件が整わないと思われたことから、後継稚樹の育成を目的とした補助作業として平成21年度～22年度に除伐を実施しました。

今年度の稚樹の調査を実施した結果、26・27年度にそれぞれ発芽した2個体が消失し、新たに8個体の発芽が確認されたことで、下木処理を行ったプロット内の稚樹本数は7～16本となり、未処理プロットの2本に比べて増加傾向が続いています。また、稚樹高も8～60cmとサイズに幅はありますが、21年度調査から3倍程度の大きさとなりました。



コウヤマキ



コウヤマキの稚樹

※ 「城山史跡の森」・・・福島城跡一帯の国有林を含む、県有林、寺社有林の総称です。

2 森林環境教育支援

学校と連携した森林環境教育の実施

(1) 木曽青峰高校の体験学習

長野県木曽郡木曽町に所在する木曽青峰高校では、森林環境教育の観点から新入生を対象に、ここ数年、体験学習として上松町小川入国有林内の赤沢自然休養林内で、森林散策、自然観察と遊歩道への木製チップ敷き作業を行っています。

5月27日（金）、地域の遺産である木曽ヒノキの天然林を知り、この遺産を活かすためのボランティア体験学習を行うことで、地域貢献の意義を学習する目的で、1年生140名と教職員14名が8班に分かれ、NPO法人「木曽ひのきの森」、木曽森林管理署、当センター職員の指導のもと作業体験に汗を流しました。

また、生徒達は、一般の方は、普段入ることが出来ない、休養林内の「千本立、奥千本」と名付けられている木曽ヒノキ林まで、地域の森林・林業の歴史や天然林成立経緯の説明を受けながら森林散策しました。

樹齢300年を越すといわれる木曽ヒノキが林立する森に足を踏み入れ、生徒達は感動や感心をしていました。



歩道へのチップ敷き作業

(2) 犬山中学校の総合学習

愛知県犬山市立犬山中学校の2年生227名が、2泊3日の日程で木曽総合学習を実施しています。学校の近くを木曽川が流れており、木曽川との関わりが深いことから、上流域である木曽地域において「自然を守り育てる心を育むとともに、日本の豊かな自然に触れ、その仕事に携わってる人の考えに触れる」ことを目的に自然や文化を学ぶ総合学習を平成11年から毎年行っています。

5月9日（月）は長野県木曽郡上松町の赤沢自然休養林で実施され、2年生の生徒227人が3班に分かれオオヤマザクラの記念植樹や遊歩道への木製チップ撒き作業を体験しました。

作業に先立ち、赤沢自然休養林で整備等の活動をしているNPO法人「木曽ひのきの森」の会長から水源の大切さや、上下流域の関わりなどについて話を聞きました。



赤沢自然休養林での集会

(3) 上松技術専門校の体験学習

長野県立上松技術専門校は、木工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大変さ・大切さや木曽の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。

5月13日（金）に、訓練生34名と職員6名が、熊による皮剥ぎ被害を防止するため、ヒノキの幹にテープを巻く作業を実施しました。

作業終了後は、赤沢自然休養林内の普段一般の方が入林出来ない「千本立」、「奥千本」を散策し、木曽ひのきの歴史等について学びました。

木曽森林管理署と当センターの職員により、作業の指導と散策の案内を行いました。



テープ巻き作業

(4) 愛知県立阿久比高等学校 森林ボランティア

愛知県知多郡阿久比町の県立阿久比高校では、「優しい人がボランティアをするのでなく、ボランティアをする中で優しくなっていく」として、ボランティア活動に参加して、本当の優しさを身につけてくれたらと、様々なところで各種ボランティア活動を行っています。

その一環として8月9日（火）、阿久比高等学校は、長野県木曽郡王滝村で平成9年から毎年、長野県西部地震被災地の「国民の森」で森林復旧を目指して除伐作業を実施しており、今回で20回目となりました。

当日、生徒37名、職員5名は王滝村松原スポーツ公園で開会式を行い、木曽森林管理署南滝越首席森林官からの歓迎のあいさつ、同署総括治山技術官から長野県西部地震の説明を受け作業現地へ移動しました。

作業現地では6班に分かれ、木曽署、当センター職員による作業指導の下、2人一組で夏の青空の下、大粒の汗をかきながら、除伐、玉切り作業にかかりました。初めて参加する生徒や2回目となる生徒もおりましたが、作業を進めるに従い作業に慣れ、生徒からは「次はこれを切ってもいい？」などの声が聞かれました。

このボランティア作業を通じて、森林の大切さなどを理解していただけたと思います。



除伐木を玉切る生徒

第4 中部森林技術交流発表会

平成29年1月31日（火）～2月1日（水）に実施された中部森林技術交流発表会において、「木曽谷支援の取組について」と題して御嶽山噴火により低迷している木曽谷への復興支援を目的として、「木曽川の下流域の中京圏との交流イベント」、「木曽谷復興支援ツアー」、「木曽地域の観光協会等と連携したパズルラリーの実施」により観光客誘致の一助となる取組について発表しました。

発表結果は、地域連携による活動等が評価され、局長優秀賞をいただくことができました。

以下に、発表要旨を紹介します。

1. 課題を取り上げた背景

平成26年9月に発生した御嶽山の噴火は、犠牲者が50名を超える大災害となり、発生から3年目となる現在でも観光客は噴火前の75%と回復しておらず、木曽谷の観光産業へ深刻な影響を与えています。

中部森林管理局では、木曽谷の支援を実施するため、長野県による「つながろう木曽応援運動」の一環として、木曽川下流域の中京圏との交流イベント、木曽谷の復興支援ツアー及び木曽地域の観光協会等と連携した木曽路トレッキングパズルラリーなどを実施することにより、観光客誘致の一助とするための取組を行っています。



2. 取組の経過

「中京圏との交流イベント」は、長野県等の関係機関との協力により、森林ボランティア活動へのフィールドの提供、技術指導などを行っています。

「木曽谷の復興支援ツアー」は、木曽谷の豊かな自然や水資源への理解を深めてもらうことを目的に平成26年度から開催しており、これまでに国有林の木曽ヒノキ林や名古屋市の水瓶である牧尾ダムの見学等を行いました。

平成28年度から、新たな取組として「木曽路トレッキングパズルラリー」を実施しました。

パズルラリーは、木曽路の遊歩道を散策することにより、森林の大切さへの理解と来訪者数の増加を促し、参加者による新たな観光名所の発見やパズル完成による達成感の獲得を狙いとしてしました。



中京圏との交流イベント

木曾地域6町村に所在する12の散策コースを巡る「木曾路トレッキングコース」と赤沢自然休養林内で完了する「赤沢トレッキングコース」を同時開催し、コース内の定点にあるパズルピースを6枚集めると木曾谷ゆかりの浮世絵、木曾谷の林業の歴史を語る「木曾式伐木運材図会」が完成するようにしました。

3. 実行結果

パズルラリーは初めての試みでしたが、思った以上に好評を博し、参加者へのアンケート結果では、地元の長野県や愛知県などの中部地方が77%を占め、年齢別では50歳以上が55%となりました。

参加者や協賛団体からは「よかった」、「継続してほしい」という好意的な反応が多く寄せられました。



木曾谷支援ツアー

4. 考察

これまで実施した木曾谷支援の各種取組は、多数の参加者を得て一定の成果が上がり、今年度から着手したパズルラリーは、参加者や協賛団体等から継続の強い要望が寄せられています。また、パズルの貼り板には「木曾の間伐材使用」と銘打って間伐材の利用促進への想いを込めました。

5. おわりに

木曾谷全体では、噴火前の水準には戻っておらず、また新たな来訪者を呼び込むためには、既存の観光施設と国有林との一体的利用により、観光客の増加を図るなどの効果的な企画を検討し、木曾谷支援の一助となるように、引き続き地元町村、観光協会やNPO団体などと連携を図りながら実施し、木曾谷支援に努めて参ります。

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	6	木曽清峰高校入学式(木曽町)
	7	林業大学校入学式(木曽町)
	10	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曽町城山史跡の森)
	20	城山史跡の森 木曽清峰高校森林散策(木曽町城山史跡の森)
	20	木曽福島林業振興会総会(木曽町)
	23	木曽川・水の始発駅総会(木祖村)
	23	木曽ひのきの森総会(上松町)
	26	城山史跡の森 整備検討会(木曽町)
	29	城山史跡の森 植物観察会(木曽町城山史跡の森)
	29	木曽路トレッキングパズルラリー開始(木曽町外) 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始(赤沢自然休養林)
5	9	犬山中学校木曽総合学習(赤沢自然休養林)
	11	城山史跡の森 ササユリ自生地整備(木曽町城山史跡の森)
	12	木祖村・日進市合同育樹祭 味噌川ダム管理開始20周年祈念桜植樹式(木祖村)
	13	上松技術専門学校 林業体験(赤沢自然休養林)
	14	名古屋市民の森づくり(木曽町)
	17	岐阜農林高校学習会(赤沢自然休養林)
	18	城山史跡の森 カザグルマ自生地整備(木曽町城山史跡の森)
	19	森林ボランティア・NPO連絡推進会議第1回実行委員会(下諏訪町)
	21	木曽郡植樹祭(第67回全国植樹祭県民植樹) 木曽森林管理署南木曽支署・南木曽町合同植樹祭(南木曽町)
	22	地球緑化センター森林整備(上松町)
	25	木曽の国有林見学会(赤沢自然休養林)
	26	松本市本郷小学校森林教室(自然散策および森林学習)(赤沢自然休養林)
	27	木曽青峰高校体験学習(赤沢自然休養林)
31	森林・林業体験交流促進対策第1回検討委員会(王滝村)	
6	2~3	木曽悠久の森管理委員会 森林総合利用、地域振興専門部会(赤沢自然休養林)
	7	城山史跡の森 ササユリ自生地調査(木曽町城山史跡の森)
	12	中日親友隊 王滝村活動(うぐい川ウォーク)(王滝村)
	13	木曽町行政懇談会(木曽町)
	15	京都府北桑田高校森林学習(赤沢自然休養林)
	22	木曽町・木曽署林政懇談会(木曽町)
	24	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー終了(赤沢自然休養林)
	28	高山植物保護管理協議会木曽地区総会(上松町)

月	日	活 動 内 容
7	3	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町城山史跡の森)
	12~13	木曾悠久の森管理委員会(上松町)
	16	御料館企画展(木曾町)
	20	木曾駒ヶ岳植生復元作業
	21	森林・林業体験交流事業現地検討委員会(王滝村)
	21	国民の祝日「山の日」制定記念クリーン活動(木曾町城山史跡の森)
8	1	岐阜県立飛騨高山高校国有林等の見学会(赤沢自然休養林)
	2	木曾地区みどりの少年団交流集会(木祖村「こだまの森」)
	3	高山植物等保護合同パトロール(木曾町)
	4	教職員森林・林業学習会(赤沢自然休養林)
	9	愛知県立阿久比高校森林ボランティア(王滝村)
	19	森林ボランティア・NPO連絡推進会議第2回実行委員会(下諏訪町)
	24	安曇野市里山学校プロジェクト木曾ヒノキ天然林視察(赤沢自然休養林)
9	9	木曾駒ヶ岳植生復元作業
	11	地球緑化センター森林整備(上松町)
	14	王滝(瀬戸川)風致探勝林視察(王滝村)
	17	みよし市友好の森ふれあいツアー(木曾町)
	21	森林・林業体験交流促進対策第2回検討委員会(王滝村)
	23	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始(赤沢自然休養林)
	30	木曾悠久の森 上松町民見学会(上松町)
10	13	国有林等所在市町村長有志連絡協議会木曾地区総会(上松町)
	9~10	熱田区区民まつり(名古屋市)
	14~15	森林ボランティア・NPO連絡推進会議(下諏訪町)
	22	緑の挑戦者森林整備ボランティア作業(木曾町)
	27	木曾の国有林見学会(赤沢自然休養林)
	28	三浦実験林現地講習会(王滝村)
11	1	木曾悠久の森管理委員会(中津川市町)
	9	多様な森林への誘導に関する検討会(赤沢自然休養林外)
	13	城山史跡の森 小鳥の巣箱点検、ササユリ自生地整備、カザグルマ自生地整備(木曾町城山史跡の森)
	13	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー終了(赤沢自然休養林)
	15	城山史跡の森 コウヤマキ更新調査(木曾町城山史跡の森)
	16	王滝国有林指標林調査(王滝村)
	17~18	阿寺国有林試験地調査(大桑村)

月	日	活 動 内 容
11	21	王滝国有林(瀬戸川・東俣)の取扱い打合せ会議(王滝村)
	29	多様な森林への誘導に向けた現地勉強会(恵那市)
	30	中部森林管理局・森林総合研究所 技術交流会(上松町)
12	5	森林ボランティア・NPO連絡推進会議第3回実行委員会(下諏訪町)
	8	森林・林業体験交流促進事業教材部会(王滝村)
	14	ニホンジカ対策現地確認(木祖村、木曾町)
	19	木曾清峰高校ベンチ贈呈式(木曾町御料館)
1	11	カラマツ林業等研究発表会(塩尻市)
	20	中央アルプスのシカ対策シンポジウム(駒ヶ根市)
	31~1	中部森林技術交流発表会(長野市)
2	9	木曾署、ふれセン ふれあい業務打合せ(上松町)
	16	「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」締結式(長野市)
	21	長野林政協議会木曾谷流域部会(木曾町)
3	3	林業大学校卒業式(木曾町)
	4	木曾清峰高校卒業式(木曾町)
	7	木曾谷の野生獣害対策講演会(木曾町)
	17	森林ボランティア・NPO連絡推進会議第4回実行委員会(下諏訪町)
	21	城山史跡の森倶楽部総会(木曾町)
	22	森林・林業体験交流促進対策第3回検討委員会(王滝村)